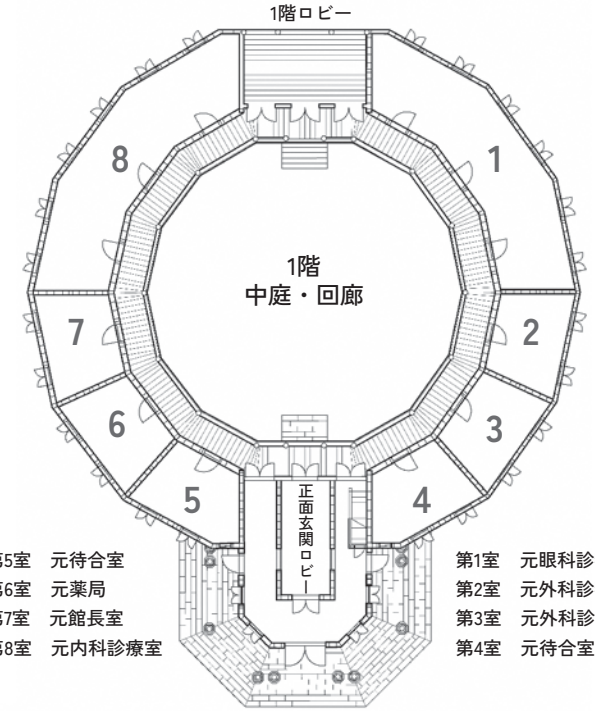
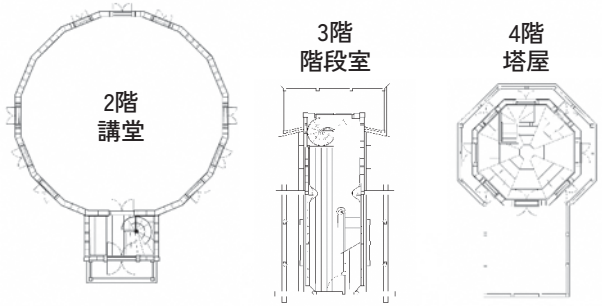
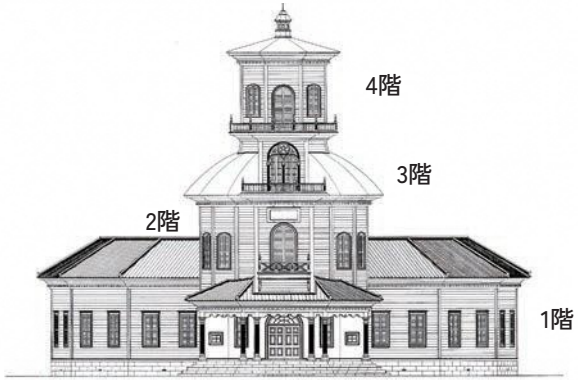
済生館病院時代のフロアマップ



第5室　元待合室
第6室　元薬局
第7室　元館長室
第8室　元内科診療室

第1室　元眼科診察室
第2室　元外科診察室
第3室　元外科診察室
第4室　元待合室







開館時間｜9:00~16:30
※イベントによる変更有

休館日｜年末年始［12/29 ～ 1/3］

入館料｜無料

facebook

Instagram

山形県山形市霞城町 1-1（霞城公園内）
TEL｜023-644-0253　FAX｜023-644-0253

国指定重要文化財
Nationally Designated
Important Cultural Property

山形市郷土館

Yamagata City Local History Museum



旧済生館 本館

Old Saiseikan Hospital Building

郷土館の３つの宝

Ⅰ 三条実美筆「済生館の扁額」



「済生館」とは、「人の命を救う館」という意味です。明治時代の太政大臣三条実美によって名づけられました。この書は三条実美が自ら揮毫したもので、建物正面にはこれを木彫りにした額が掲げられています。

Ⅱ 解体新書と本草綱目

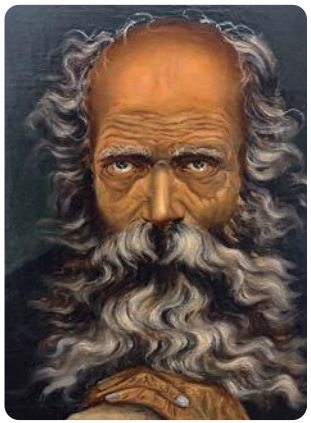


安永3年（1774）刊行の日本初の本格的な西洋解剖学書『解体新書』(初版本)。杉田玄白らが翻訳し、小田野直武による精緻な解剖図が収録されています。



中国・明代の医師・李時珍が編纂した本草書『本草綱目』。郷土館には、寛永14年（1637）刊行の和刻本全52巻が収蔵されています。

Ⅲ ヒポクラテスの肖像画



明治12年（1879）の済生館開院にあわせ、洋画家・山田成章が制作した作品です。高橋由一の画塾「天絵社」で学んだ山田は、のちに東京大学医学部で画学を担当しました。当時、古代ギリシャの医聖ヒポクラテスは西洋医学の象徴として2階講堂に展示されていました。

郷土館について



山形市郷土館（旧済生館本館）は、初代山形県令・三島通庸の命により明治11年（1878）に建てられた擬洋風建築の病院です。日本の職人が西洋建築を手本に造った建物で、和洋の意匠が調和した外観が特徴です。
昭和41年（1966）に国の重要文化財に指定され、昭和44年（1969）には霞城公園内へ移築復原されました。



済生館病院・医学校

済生館には医学校も設けられ、明治13年（1880）にはオーストリア人医師ローレツが教頭兼館医として招かれました。ローレツは約2年間山形に滞在し、西洋医学の普及に尽力しました。
医学校は明治21年（1888）に閉鎖しましたが、その後も産婆養成所や看護婦講習所が置かれ、医療人材の育成に大きな役割を果たしました。



Albrecht Von Roretz
アルブレヒト・フォン・ローレツ

郷土館のみどころ

常設展示

山形市の郷土の歴史や、国指定重要文化財「旧済生館本館」の建築の魅力、済生館を中心とした医学資料を展示しています。

企画展

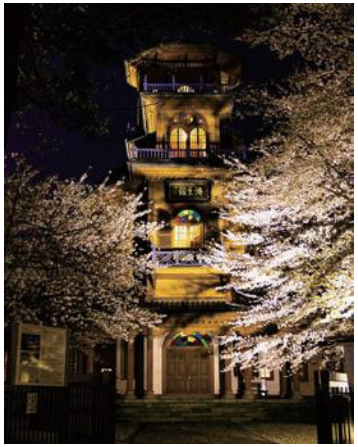
山形市に寄贈された資料や出土品などを展示する新収蔵品展のほか、季節に合わせた企画展を年3～4回開催し、あわせてギャラリートークを随時実施しています。



特別公開

季節ごとに、通常は非公開の3・4階を見学できる特別公開や、開館時間を延長して夜の郷土館を楽しめるナイトミュージアムを開催しています。





企画展・特別公開の情報はこちらから